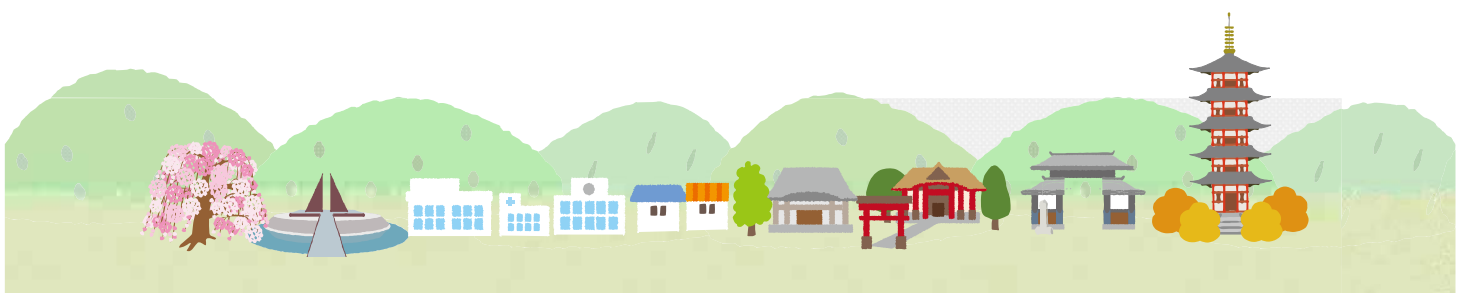


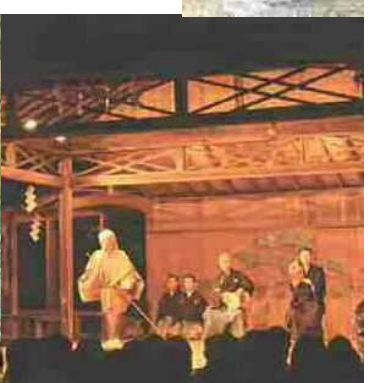
オール宇陀で
取り組む

魅力的で活力ある 高原都市に向けた 実現プラン

第2次宇陀市総合計画 中期基本計画

令和4年2月
宇陀市





<u>はじめに</u>	1
-------------	---

<u>宇陀市の紹介</u>	2
---------------	---

第1編 中期基本計画の策定にあたって

第1章 計画の構成と期間	6
第2章 計画の進行管理	7
第3章 SDGsの考え方の導入	9
第4章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化	12
第5章 まちづくりの課題	14

第2編 基本構想 2018～2029

第1章 前期基本計画から継承する基本理念と将来像	28
第2章 基本構想における目指すまちの姿	29
第3章 人口ビジョン	31

第3編 中期基本計画 2022～2025

第1章 まちづくりの成長戦略	38
第2章 施策体系	42
第3章 施策と持続可能な開発目標 (SDGs) との関係	46
目指すまちの姿1 健幸なまち	48
目指すまちの姿2 暮らしやすいまち	59
目指すまちの姿3 活力あるまち	68
目指すまちの姿4 生涯輝くまち	80
目指すまちの姿5 自然豊かなまち	89
目指すまちの姿6 地域力を発揮するまち	96

資料編

はじめに

宇陀市では、2018年度から12年間の市政運営の指針となる「第2次宇陀市総合計画」に基づき、まちづくりを進めています。このうち、2021年度までの4年間は、前期基本計画に基づき、様々な取り組みを行ってきたところで、2022年度から2025年度までの4年間は「中期基本計画」の計画期間となります。

計画の策定にあたっては、人口減少問題や地域経済の活性化、雇用の確保など、既に顕在化している課題をはじめ、暮らしの中で感じている課題についてアンケートや座談会を開催し、その反映に努めてきました。

また、これまでの施策を振り返るとともに、変化し続ける社会情勢に対応するため、宇陀市のまちづくりを牽引する先導的、戦略的、横断的な取り組みをリーディングプロジェクトとして位置づけています。

その他にも、宇陀市の将来像や目指すまちの姿の実現に向けて取り組んでいく施策においては、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式やSDGsの考え方を取り入れています。

本計画に基づき、宇陀市の未来に向けた施策を進めていきます。



鳥見山から雲海に包まれた宇陀を臨む

宇陀市の紹介

位置・地勢

宇陀市は2006年1月1日、宇陀郡の大宇陀町・菟田野町・榛原町・室生村の4町村の合併により誕生しました。奈良県の北東部に位置し、北は奈良市、山添村、西は桜井市、南は吉野町、東吉野村、東は曾爾村、三重県名張市に接しています。本市の総面積は247.50km²、県全体の6.7%を占めています。

市域は大和高原の南端に位置し、四方を山に囲まれた高原都市です。宇陀市役所付近は標高308m、曾爾村境界付近は標高700mを超え、市域内での高低差が大きくなっています。内陸性気候で、冬は季節風の影響を受けるため、寒さが厳しい一方、夏は冷涼となっています。年間降水量は約1,500mmです。

交通の面は、近鉄大阪線によって、京都・大阪方面や名古屋・伊勢方面と結ばれており、また、大阪方面から本市への自動車によるアクセスは、名阪国道針ICと大阪・松原JCT（西名阪自動車道）が約1時間で結ばれる距離にあります。



産 業

産業は、農業や林業を中心とした構造となっています。農業では、夏の冷涼な気候、昼夜の寒暖差を活かした米や茶（大和茶）のほか、ホウレンソウ、金ごぼう、黒大豆等の野菜が生産されています。他にもダリアやきれいな水を生かして作られる吉野本葛も特産品となっています。

また、毛皮革製品も有名で、革のなめしから、加工・縫製・販売までを一貫して行える体制を持っています。特に鹿革の製造取扱量は全国シェアの90%を占めています。

歴 史

宇陀の地は、「古事記」「日本書紀」等に、神武伝承の舞台、薬猫として狩りを行う場として記載があるほか、「万葉集」では柿本人麻呂の歌が詠まれています。

平安時代以降、荘園として興福寺の支配下にありました。南北朝時代から戦国時代にかけては、伊勢国司北畠氏の勢力を受けるようになりましたが、その後、江戸時代には宇陀松山藩として、織田氏の統治の後、幕府の直轄地となりました。この地域は、大和と伊賀、伊勢を結ぶ交通の要衝であり、室町時代に始まり江戸時代に盛んになった庶民のお伊勢参りのルートにあたり、宿場町として繁栄しました。

明治元年に奈良県となりますが、堺県との合併、大阪府への併合の後、明治20年に再び奈良県が設置され、この地域は宇陀郡に属することになりました。明治22年の町村制の施行により、宇陀郡は1町11村から構成されることになりました。

旧大宇陀町は昭和17年、旧菟田野町は昭和31年、旧榛原町は昭和29年・30年・44年、旧室生村は昭和30年にそれぞれ合併して誕生しました。

第1編

中期基本計画の策定にあたって





芳野川沿いの桜並木

芳野川沿いの水分桜

第1章 計画の構成と期間

総合計画は、基本構想と基本計画で構成します。

基本構想

基本構想は、目指すまちの将来像やその実現に向けた目標、施策の概要を示すものです。

【計画期間】 2018年度～2029年度の12年間

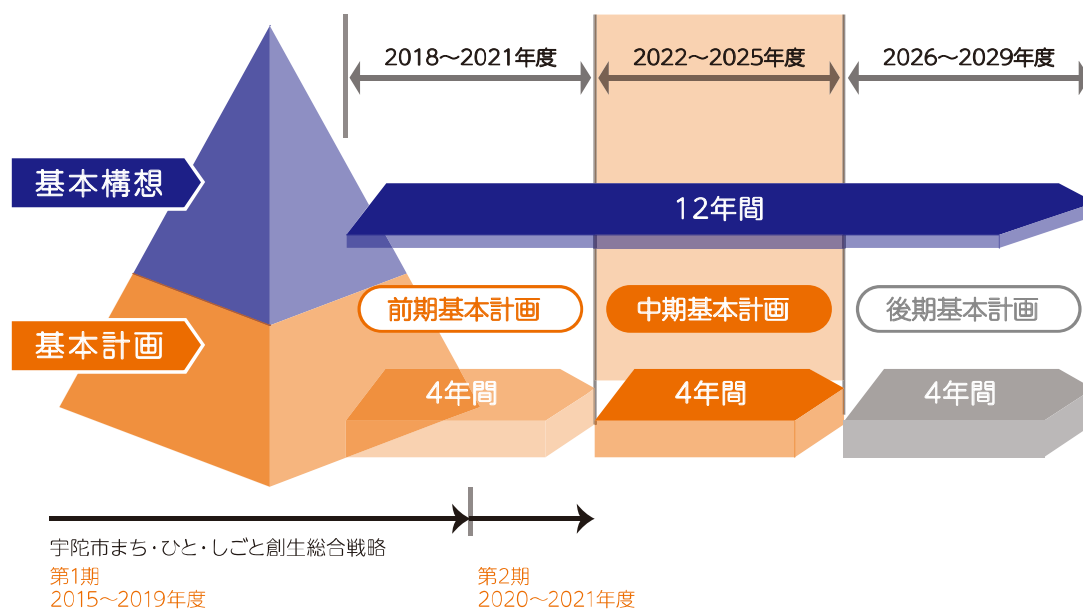
基本計画

基本計画は、基本構想に基づき、将来像を実現するための具体的な施策を体系的に示すものです。

【計画期間】 前期/2018年度～2021年度の4年間

中期/2022年度～2025年度の4年間

後期/2026年度～2029年度の4年間



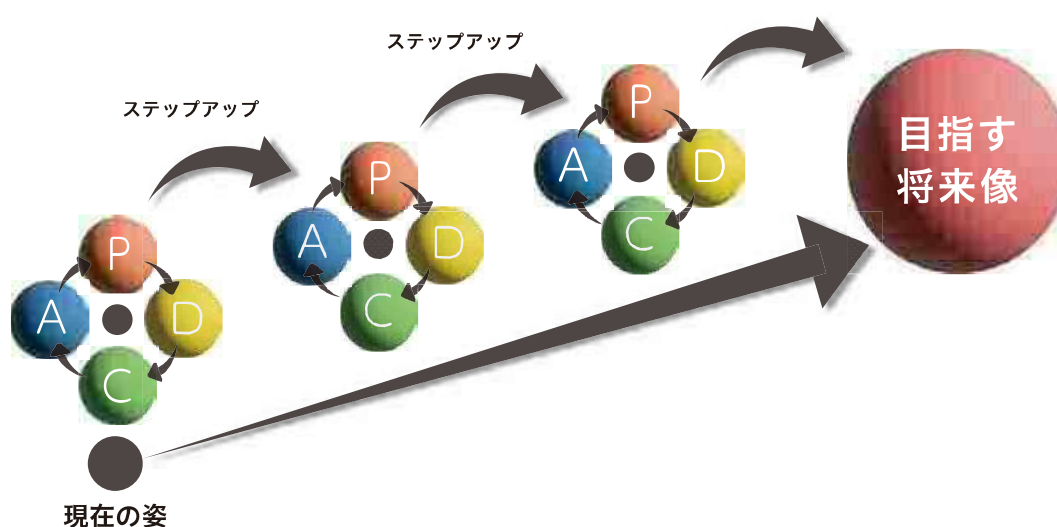
*総合戦略の施策が総合計画に含まれることから、2020年度に総合戦略を総合計画に一本化しています。

第2章 計画の進行管理

(1) PDCAサイクルの実践

総合計画で取り組む目指すまちの将来像を実現するため、中期基本計画(Plan)に基づいて、事業を実施し(Do)、事業の成果や達成の整理、目標に向けた評価・検証を行い(Check)、必要に応じて事業の改善や見直しにつなげ(Action)、その結果に応じて改めて計画に反映させます(Plan)。

PDCAサイクルを毎年度繰り返し実施することで進捗管理を行い、目標達成に向けたより効率的・効果的な事業構築につなげます。



(2) 評価の方法

計画の構成に合わせて、基本構想と基本計画のそれぞれについて評価を行います。

基本構想は、「目指すまちの姿」がどの程度実現できているのかについて、新たに基本計画を策定する4年ごとに評価します。

基本計画では、「施策」の進捗状況について毎年評価します。

基本構想及び基本計画の評価方法

	評価項目	評価指標	評価方法
基本構想	「目指すまちの姿」の実現度	<ul style="list-style-type: none"> ・「目指すまちの姿」に対するアウトカム指標（成果指標） ・市民等に対するアンケート結果における満足度や重要度等 ・「施策」の進捗状況 	<p>左記3つの評価指標を用いて総合的に判断し、I～Vの5段階で評価する。</p> <p style="background-color: #d0d0e0; padding: 5px;"> I：目指すまちが十分に実現できている。 II：目指すまちが概ね実現できている。 III：目指すまちがある程度実現できている。 IV：目指すまちがあまり実現できていない。 V：目指すまちが全く実現できていない。 </p>
基本計画	「施策」の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策」に基づいて実施している事業について、計画通り進捗している割合を点数化 	<p>各事業の目標値に対する実績値の割合を算出し、点数化する。（宇陀市独自の取り組みで評価できる事業の目標値を掲げるものとし、法定受託事務等で行っている事業は除く。）</p> <p style="background-color: #f0d0a0; padding: 5px;"> 【実績値/目標値により点数化】 a：100%以上は4点 b：80%以上100%未満は3点 c：60%以上80%未満は2点 d：40%以上60%未満は1点 e：40%未満は0点 </p> <p>次に各施策の事業の平均値を、施策の総合評価とする。</p> <p style="background-color: #f0d0a0; padding: 5px;"> A (3.5以上)：施策が十分に実現できている。 B (2.5点以上3.5点未満)：施策が概ね実現できている。 C (1.5点以上2.5点未満)：施策がある程度実現できている。 D (0.5点以上1.5点未満)：施策があまり実現できていない。 E (0.5未満)：施策が全く実現できていない。 </p>

第3章 SDGsの考え方の導入

SDGs (Sustainable Development Goals) とは2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際目標のことです。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現するために、17分野の目標と、その下に目標と紐づいた169ターゲット、232の指標が決められました。

SDGsの理念を踏まえ、宇陀市は、中期基本計画にSDGsの17の目標を関連付けました。市民の皆さんや企業、各機関と連携しながら施策や事業を実施し、目標達成のための取り組みを進めることで、未来にわたって持続可能なまちづくりを推進していきます。

SDGsの17分野の目標 (ゴール)



17のゴールから見た主な取り組み





第4章 宇陀市を取り巻く社会情勢の変化

2018年に前期基本計画を策定して以降、宇陀市を取り巻く現状はコロナ禍による新しい社会像や価値観により変化しています。また、その変化のスピードは速く、急速に変わりつつあります。

(1) 人口減少・少子高齢化の進展

国勢調査による日本の総人口は、2010年をピークに減少しており、総人口に占める高齢者の割合は、2020年では28.6%となっています。

宇陀市の人口は国より早い1995年にピークを迎え、それ以降、減少が続いています。高齢化率も上昇し続け、2020年では42.1%と、2.4人に1人は65歳以上になっています。また、14歳以下の人口は減少し続け、2020年には2,481人と、最も人口の多い1995年に比べて4,339人(63.6%)減少しています。

人口の減少や少子高齢化の進展により、消費の縮小や労働の減少、まちの活力低下など様々な影響が生じていることから、持続可能なまちづくりを進めていくことが重要です。

(2) 新型コロナウイルス感染症がもたらした社会の変化

新型コロナウイルス感染症は、世界的な大流行となり、世界規模で社会的・経済的に大きな影響をもたらしました。宇陀市においても、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、感染が拡大している地域への不要不急の往來の自粛や一部業種の営業自粛、休校(園)、自宅待機など、市民生活や地域経済に影響を与えました。

また、感染拡大に伴い、対面から非対面・非接触へのシフトやテレワークが広がり、都市部での暮らしから地方で働き、暮らすスタイルに関心が高まるなど、新しい生活様式や企業活動が大きく変化しています。

引き続き、感染症対策を徹底し、ウィズコロナ時代に応じた新しい生活様式の実践を推進するとともに、影響を受けた市民生活や地域経済の回復・活性化を進めていくことが重要です。

(3) 自然災害の多発化・激甚化

近年、100年に一度と言われるような甚大な被害を及ぼす自然災害が各地で発生しています。宇陀市においても2019年の台風19号による豪雨災害が発生し、市民の生活だけでなく、道路等のインフラにも甚大な被害をもたらしました。

今後も地球温暖化の影響で、自然災害の多発化・激甚化に加え、局所的な豪雨や南海トラフ地震など、予測が難しい災害の増加が予想されます。そのため、県等との連携を強化し、災害時には全市民に対して迅速に情報が伝わるよう、多様な情報伝達手段の確保や感染症対策等の機能を有した避難所の確保が必要です。

災害発生時には、行政が対応できない事態が起こる恐れがあります。いつ起こるかわからない災害に備えて、市民・地域・行政がそれぞれの役割分担と協働のもと、減災・防災対策に取り組むことが重要です。

(4) グリーン社会の実現に向けた脱炭素化

世界を取り巻く環境問題は、経済活動の拡大やエネルギーの大量消費等による地球温暖化、プラスチックごみによる海洋汚染、自然環境の変化による生物多様性の喪失など、地球規模で対応しなくてはならない問題となっています。

国においては、2050年脱炭素社会の実現に向けた「地域脱炭素ロードマップ」が決定され、地方における脱炭素化の取り組みを推進しています。

宇陀市においても、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐため、環境にやさしいライフスタイルへの転換を進めるとともに、省エネルギーの推進など、環境への負荷が小さい循環型社会の形成を進めることが重要です。

(5) デジタル社会の加速化

近年、IoTやAI、ロボット等に代表される技術革新が進んでおり、デジタル技術を活用して地方創生につなげることが期待されています。しかし、新型コロナウイルス感染症によって、様々な分野でデジタル化の遅れが浮き彫りとなりました。

そのため、デジタル庁を核として全ての人にデジタル化の恩恵が行き渡る社会を構築するための施策が進められているところです。生産、販売、消費といった経済活動だけでなく、健康、医療、農林業など幅広い分野での活用やテレワークの拡大など働き方にも変化を及ぼすと考えられます。

今後、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、労働力人口の減少が予想される中、新たな技術を活用して労働力を補充していくとともに、地域経済の活性化につなげていくことが重要です。

第5章 まちづくりの課題

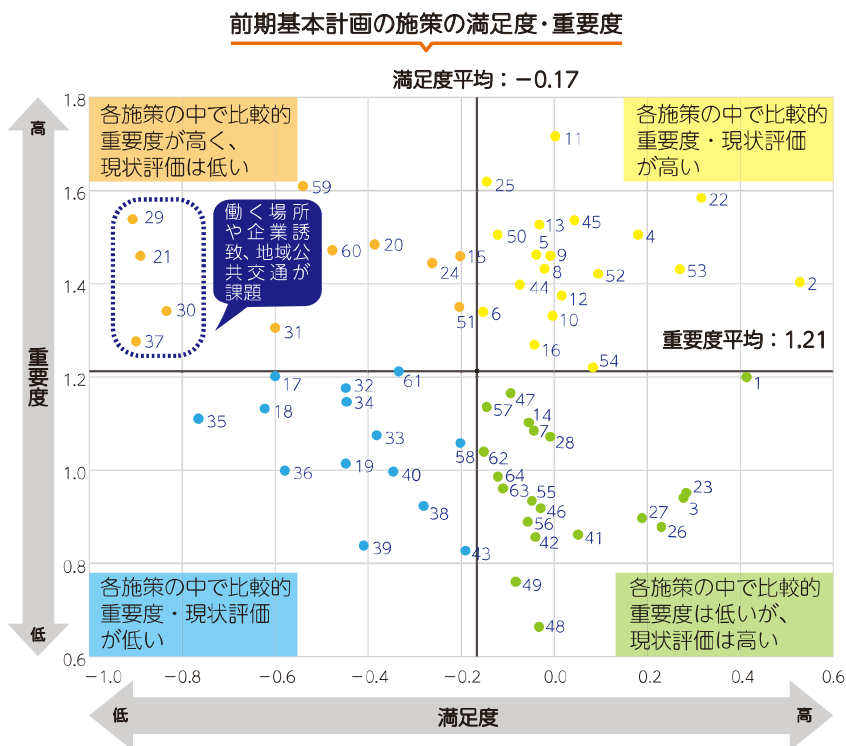
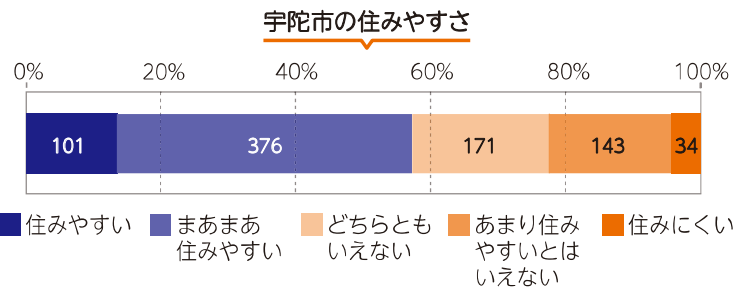
(1) アンケートの分析

市民の方々の宇陀市についての印象やこれまでのまちづくりに対する評価、これからのまちづくりに対する意向を把握するため、アンケート調査を実施しました。

その結果、全体の約6割が「住みやすい」「まあまあ住みやすい」と回答しています。一方で、「商工業の振興」や「農林畜産業の振興」、「土地の有効活用」、「働く場所」の満足度が低い結果が出ています。

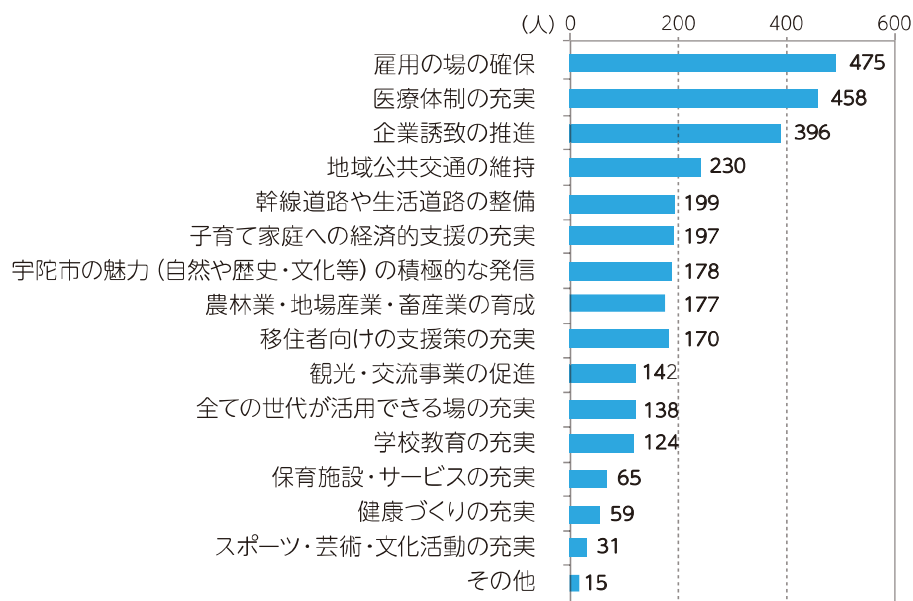
また、これから必要な取り組みとして、「雇用の場の確保」や「医療体制の充実」、「企業誘致の推進」、「空き家の有効活用」と回答された方が多くなっています。

この結果から、これまで取り組んできた健康づくりや福祉施策については評価されている一方、空き家や遊休地など土地を有効に活用した働く場の確保、移住・定住に向けた取り組みが求められています。



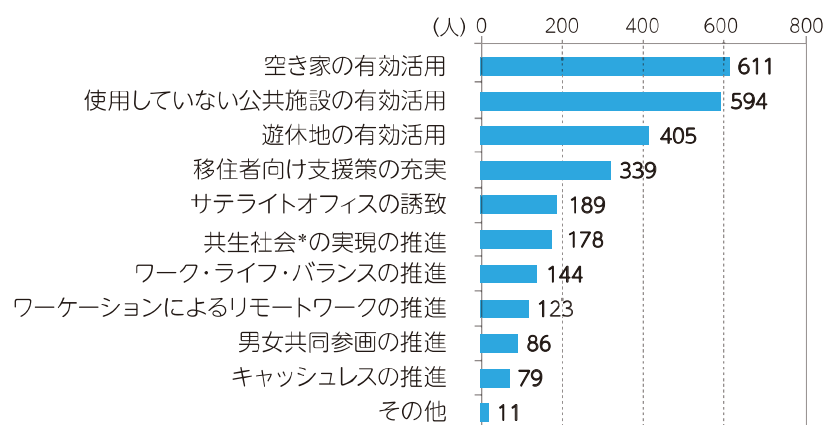
施 策	
1 健康づくりのためのイベント等の開催や検(健)診の受診奨励	33 付加価値のある農産物の栽培や食品ブランド化
2 予防接種の啓発や接種奨励	34 森林の保全と宇陀市産木材の活用
3 いきいき百歳体操など、介護予防対策	35 商店街の活性化支援
4 介護・福祉サービス	36 商品開発など、事業所への支援
5 障がいのある人へ生活支援	37 企業誘致による新たな産業の展開
6 困難を抱えた家庭への相談や生活支援	38 案内看板の設置や登山道の整備
7 福祉に携わる団体等とのネットワークづくり	39 観光資源を活かした周遊・滞在型観光、スポーツツーリズムの推進
8 保育サービスなど、仕事と子育ての両立支援	40 観光誘客に向けたホームページやSNSを活かした情報発信
9 子育て支援の充実	41 人権について学ぶ機会の提供
10 母子保健事業の充実	42 男女共同参画の推進
11 市立病院や診療所等の地域医療の充実	43 市内事業者へのワーク・ライフ・バランスの啓発
12 地域医療と福祉の連携(宇陀けあネット)の充実	44 プログラミング教育など、学校教育の充実
13 子どもや高齢者等に対する福祉医療の充実	45 安心して学ぶ環境の整備
14 景観や環境に配慮したまちづくり	46 榛原総合センターなど、生涯学習施設の整備と講座等の開催
15 交通事故の未然防止のための整備や啓発	47 学校、家庭、地域が一体となった教育力の醸成
16 地域防犯への取り組みや消費者問題に対する相談窓口の設置	48 スポーツ施設等の計画的な整備と各種スポーツ大会の開催
17 計画的な土地利用に配慮したまちづくり	49 芸術・文化活動による地域の活性化
18 空き家の活用など、定住支援	50 ごみゼロ美化運動や不法投棄防止の取り組み
19 U・I・Jターン者への支援	51 里山など、自然環境の保全
20 安全で快適な道路環境	52 ごみの減量化にむけたリサイクルの推進
21 市内を移動しやすい地域公共交通	53 し尿処理など、生活衛生環境の向上
22 水の安定供給のための水道施設の維持	54 市営斎場等の整備・運営
23 「うだチャン」など、情報通信技術を活用した情報発信	55 公園の計画的な維持
24 耐震診断や耐震改修の補助など、災害の未然防止対策	56 公園緑地空間の整備
25 災害時における円滑な避難・防災活動	57 積極的な情報共有
26 文化財・伝統芸能・祭り・行事等の保護・活用	58 自治会やまちづくり協議会等が抱える地域課題に対する行政の参画
27 史跡や重要伝統的建造物群保存地区の歴史的まちなみ等の整備	59 健全な財政運営
28 市内で生産された特産品や名産品の利用	60 効率的な業務運営体制
29 宇陀市で働ける場所づくりの支援	61 ICTを活用した取り組み
30 新たな切り口や視点からのビジネスの創出	62 周辺自治体との連携・交流の推進
31 農道の整備や鳥獣害対策・耕作放棄地解消に向けた取り組み	63 自治会やまちづくり協議会との協働や支援を通じた地域力の向上・強化
32 農産物の生産から加工販売、木材・間伐材の利用促進	64 市民活動の支援

人口減少・地域活性化対策として必要な取り組みについて



(複数回答)

ライフスタイルの多様化に対応した取り組みとして重要と思われるもの



(複数回答)

*共生社会：障がいがある、ないにかかわらず、性別や年齢に関係なくすべての人がお互いの人権や尊厳を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会のことです。

(2) 市民との意見交換からみえた課題

市役所若手職員と子育て中の方にそれぞれ集ってもらいワークショップと座談会を行いました。ワークショップでは20年後の宇陀市に向けて「残したいこと」「困ること」「チャレンジして欲しいこと」を個々で書き出し、テーブルごとに話しながら想像を膨らませていきました。市長との座談会では、ワークショップでの内容のまとめや普段の考えを話す場となりました。

20年後の 宇陀市に向けて





市役所若手職員
に聞きました

宇陀市で
困ること

- お店が少ない（飲食・買い物不便）
- 働く場所が少ない
- 子どもが少なく、高齢化が進んでいる
- 車がないと生活できない
- 橋などインフラが老朽化している

宇陀市の
残したいこと

- ゆったりした時間
- 豊かな自然／緑／環境
- 名所／文化財／歴史建築物
（室生寺、松山地区など）
- ちょうど良い田舎
- 治安の良さ

宇陀市に
チャレンジして欲しいこと

- 子育て環境の充実・子育て世代の定住促進
- 高齢者に優しい暮らしの実現
- 働く場所をつくる／増やす
- 働き方を支える（テレワーク支援・通勤緩和）
- スポーツを活かしたまちづくり
（プロスポーツの誘致・体育施設を活かした合宿のまち）
- 大学や専門学校の誘致



ワークショップ

子育て中の市民

2021.11.05



▶▶▶ 子育て中の市民
に聞きました

宇陀市で 困ること

- 教育費が高い・子育てにお金がかかる
- 病児保育対応や小児科が不足
- 高度医療を受けられる病院が遠い
- 子どもの移動手段や遊ぶ空間が不足
- お店が少ない(飲食・買い物が不便)



宇陀市の 残したいこと

- 豊かな自然や風景
- 農業・林業の生業
- 人との繋がり・お節介な人間関係
- 歴史や文化
(伝統行事や地域の祭事)



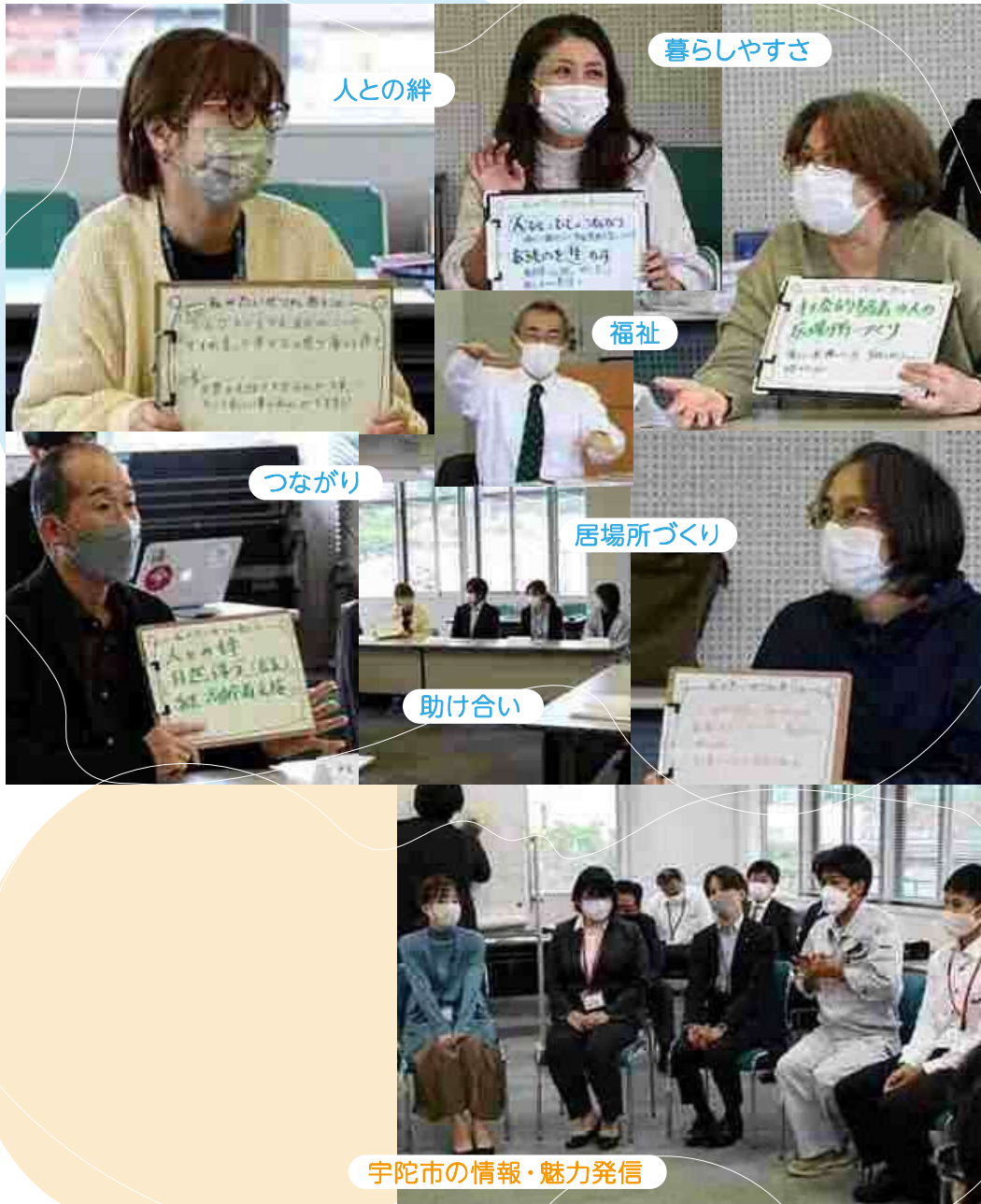
宇陀市に チャレンジして欲しいこと

- 働きながら産み育てやすい環境づくり・雇用の確保
- 教育の充実(オンラインの導入・森や田畑を活かした遊びや学び)
- 子どもの医療ケアの充実
- 高齢者に優しい暮らし・介護しやすいまちづくり
- 障がい者の支援
- 榛原駅周辺の活性化(賑わいづくり)

座談会

ワークショップ後に市長と座談会を開催し意見交換しました

私が大切だと思うこと



2021.10.25&11.05



はじめに
宇陀市の紹介

中期基本計画の
策定にあたって

基本構想

基本計画

健康なまち

暮らしやすいまち

活力あるまち

生涯輝くまち

自然豊かなまち

地域力を発揮するまち

資料編

座談会

事業をしている・はじめる方の視点から



(宇陀市商工会青年部)

倉庫の建設など会社の規模を大きくするにも、土地はあるものの規制に引っかかり事業拡大できない

若い人が働ける場が必要

宇陀市には素晴らしいものが多く、大阪まで電車で45分、また名阪国道にも近いなど立地条件は良いので魅力を上げることが必要

大和高原野菜と言われる甘みのある葉物野菜や大和当帰等の薬草、そして盛んな有機農業の魅力の発信が大切



(宇陀市仕事づくり推進隊、近畿大学)

近畿大学は奈良県との包括協定における事業の一環として、宇陀産の食材を活かしたハンバーガーやプリンメニューを提案したんだよ。

市内でパート等で働けるところが少ない。また、事業を広げようと求人しても、応募がない

コロナ禍の中、地方で生活しようと古民家の相談や取引は増えているが、紹介できる物件は不足している

宇陀市は里山が多く、所有者が細分化されている。ただし、境界がわからないものが多いため、木を切ったりは可能だが山を活用して何かをしていくとなると難しい



(奈良県中小企業家同友会宇陀ブロック)

商品を購入してもらうための情報を届けるのは難しく、サービスを受ける人が買って良かったと感じてもらえることが大切

起業に向け、宇陀市に移住し定住するにあたって、地域おこし協力隊制度は非常に後押しするものだった。何かに挑戦しやすい環境づくりが大切



福祉に取り組む方の視点から



(社会福祉法人 心境荘苑)

「誰一人取り残さない」よう一人ひとりに合った居場所づくりが大切

幼い時から障がいのある人は、子どもの時から福祉サービスの制度を知っているが、成人してから障がいを負った方は制度をあまり知らない場合がある。こういった方々も地域の人たちの助けや協力を受けて生活しておられ、地域とのつながりは大切

健康づくり・スポーツに取り組む方の視点から

ウォーキングなど同じような事業を様々な団体が行っているが、連携して事業を行い、健康づくりを進める必要がある

高齢者が増えていることから、普段運動をしていない人をターゲットに健康の維持に向けた生涯スポーツを通じた居場所づくりが大切



(宇陀市スポーツ推進委員)

市内のロードコースは信号が少なく走りやすい。また、アップダウンがありトレーニングに最適



(榛生昇陽高校自転車競技部)

まちかどトーク

市政に対して意見を聴かせてもらい、市政への市民参加と開かれた市政の実現に向けて、各種団体等に市長が出向き、様々な意見を伺っています。そこで出された主な意見を紹介します。

榛原駅前の魅力を上げ、立ち寄ってもらえるように

鳥獣害や空き家の対策、災害時の避難所までの移動について地域に応じた対策を

公有地の活用やまちづくりについて市民への情報発信が必要

学校給食について、食の安全や地産地消に更に力を入れてほしい

既存の建物を利用した取り組みを

寒暖の差があることから農作物を育てるのに適しているが、このままだと農業は衰退する。農業でやっていける支援が必要

高齢者が生きがいを持てる施策を

医療の充実や雇用の場の確保など、若い人が住める環境整備が必要

空き家や耕作放棄地への対応を

宇陀松山の魅力発信や街の中に滞在できる場を作ることが必要

各地域の誇れるものを「宇陀市の〇〇〇」と捉えられるよう意識を変えて、宇陀市を訪れる人を増やす取り組みを



開催状況 (2022年2月現在)	
2020年度	9件
2021年度	7件

DATAで見る宇陀市

健康寿命

県内市 男性 **12位** (82.53 歳) 女性 **10位** (85.20 歳)

(奈良県 2017-2019 年 市町村別健康 寿命 (65 歳平均自立期間) を基に算出)

国指定・登録文化財数

県内市 **5位** (58 件)

(2021 年 4 月 1 日現在)

犯罪認知件数の少なさ

県内市 **1位** (82 件)

(2020 年度近畿都市統計要覧)

事業所数

県内市 **10位** (1,474 件)

(2019 年経済センサス基礎調査)

財政力指数

県内市 **12位** (0.29)

(総務省：2020 年度地方公共団体の主要財政指標一覧)



面本早汰さん（大宇陀中）が、宇陀市の人口減少の現状や活性化に向けた取り組みについて、統計をもとに分析した「宇陀に生きる」を紹介します。なお、この作品は、8,495点の応募があった第69回統計グラフ全国コンクールにおいて、入賞作品33点の一つに選ばれています。

